様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	芸術系コース（美術） ／山木　朝彦

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

現職教員の大学院生も，教育実践力を見につけるには，教材開発力の習得をしなければなりません。そのために，現場で広く行なわれている題材内容と方法について学ぶだけではなく，先駆的かつ実験的な題材についても情報を収集し，検討し，その成果を学生に還元します。

児童生徒の鑑賞の力には批評力の育成が求められるので，この点で，教師自身が批評力を身につける機会を学部と院の授業内容に盛り込みます。同時に，表現と鑑賞の二領域の有機的な関連付けを教科内容学の観点から構想し指導力の定着を図ります。

また，教科教育の簡単から，現場での理想的な安定した授業のVTR記録映像を視聴させるだけではなく，先駆的な試みを行なっている事例などを紹介し，受講者の知的好奇心を喚起すると共に，実践現場にて直面する問題などについて具体的に考えられるようにします。

さらに，教科専門と教職教養との有機的な結びつきを強める基礎力の育成として，各自の思考を組み立て，定着させ，発展的に展開させるための言語化のプロセスを意識的に授業に取り入れます。すなわち，授業のまとめとしてのレポートの課題を増やし，文章力を身につけさせ，授業中のディスカッションをさらに深化させる適切な指導を行ない，パワーポイントなどを活用したプレゼン能力を高めさせる指導を行ないます。全体として，研究レポート等での思考力の深さやプレゼン用の資料作りをベースにした発表の能力，そしてディスカッションの能力を高めます。

2．点検・評価

教材開発力の習得として，現場で広く行なわれている題材内容と方法について，美術教区関連の教育専門誌など先駆的かつ実験的な題材についても情報を収集し，検討し，その成果を学生に還元した。児童生徒の鑑賞の力には批評力の育成が求められるので，学生自身が批評力を身につけるように，批評文を書かせる機会を学部と院の授業内容に盛り込んだ。同時に，表現と鑑賞の二領域の有機的な関連付けを教科内容学の観点から構想し指導力の定着を図った。具体的には，現場での授業のVTR記録映像を視聴させ，リアリティーをもって教材研究の基礎と授業構想力の育成および授業計画の立案を受講生に行わせた。

また，年度目標どおり，授業のまとめとしてのレポートの課題を増やし，文章力を身につけさせ，授業中のディスカッションをさらに深化させる適切な指導を行ない，パワーポイントなどを活用したプレゼン能力を高めさせる指導を行なった。学生に提出させたノートから判断すると。当初，予定していた目標以上に，主体的に調べ学習や考察を行っているので，判断基準を厳密に適用してもSであると考える。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

・授業や論文指導を通じて，研究面での大学院生と学部生との交流が捗るよう支援する。
・学部生が集う専修室には，こちらから出向き，教員採用試験対策などについて話を向け，勉学の悩みなどがあればすすんで聴くようにする。同様に院生研究室にも毎日，必ず訪れ，研究を促すよう心掛ける。
・学部生・大学院生などを積極的に美術館と学校との連携のプロジェクトにかかわらせるよう努力する。
・教員採用試験にとって必要不可欠な教育や美術の基礎的な用語の習得を授業の内外で促し，学生の教職へ就業を側面から援助する。
・インターネットの情報収集の方法や利用のためのリテラシーについて機会あるごとに教える。

２．点検・評価

・授業や論文指導を通じて，研究面での大学院生と学部生との交流が捗るよう支援できた。
・学部生が集う専修室には，こちらから出向き，教員採用試験対策などについて話を向け，勉学の悩みなどがあればすすんで聴くようにした。
同様に院生研究室にも毎日，必ず訪れ，研究を促すよう心掛けることができた。
・学部生・大学院生などを積極的に美術館と学校との連携のプロジェクトにかかわらせるようにした結果，特に指導した院生は美術館と積極的にかかわった。
・教員採用試験にとって必要不可欠な教育や美術の基礎的な用語の習得を授業の内外で促し，学生の教職へ就業を側面から援助した。
・インターネットの情報収集の方法や利用のためのリテラシーについて機会あるごとに教えるとともに，インターネットを利用しなければならない課題を出すことで，能力の定着に努めた。年度目標を忠実に実施した。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

①昨年に引き続き，教科教育研究における鑑賞教育研究分野での教材開発と指導方法について研究を行ないたい。
②科学研究費補助金の「英国テイト・ギャラリーの教育普及活動における学校連携の方法と成果」の2年度目にあたるため，エフォートに見合う充実した研究をこのテーマで行ないたいと思う。
③教員養成系の図画工作教育論や美術科教育論といった教育実践力と深くかかわる授業について，教科内容学および教材論・授業論の観点から考察し，その成果を大学テキストとしてまとめたい。
④大学美術教育学会および日本教育大学美術部門等にて，教科内容学研究のプロジェクトに継続的に参加し，その研究成果を公表したい。

２．点検・評価

①昨年に引き続き，教科教育研究における鑑賞教育研究分野での教材開発と指導方法について研究を行なった。美術館と連携して，高校生用の教材も開発できた。
②科学研究費補助金の「英国テイト・ギャラリーの教育普及活動における学校連携の方法と成果」の2年度目にあたるため，エフォートに見合う研究をこのテーマで行なった。具体的には優れたプロジェクトである「バーバル・アイズ」について，その全貌を明らかにする手続きの一環としてロンドンにて複数のアーティストに取材形式の調査を行った。その成果を学会発表によって明らかにした。
③教員養成系の図画工作教育論や美術科教育論といった教育実践力と深くかかわる授業について，教科内容学および教材論・授業論の観点から考察し，その成果を大学テキストとして編集段階である。
④大学美術教育学会および日本教育大学美術部門等にて，教科内容学研究のプロジェクトに継続的に参加し，その研究成果を学会の公式インターネットにて公開した。各項目が年度目標に到達したことわ評価の根拠にしている。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

・コース代表として，芸術系美術コースの発展に尽力したい。また，各種委員会とコースとのパイプ役として，相互の情報の正確な受け渡しに努めたい。
・コース会議・部会などでは，アイデアや考えを述べるだけではなく，審議事項にかかわる事柄を本学発展のために方向付けるには，どのようなプランが必要か具体的に提案したい。
・上記にかかわり，自ら関連資料を捜し求め，委員会・部・コース会議に配布するよう心がける。
・大学の一構成員として，大学の研究・教育の向上に関する事柄について，今まで以上に積極的に発言を行い，必要があればチームをつくり取り組むよう努めたい。
・同時に，指導力のある方々の意見・提言を受け止め，誠心誠意，その実現に努めたいと思う。

２．点検・評価

・コース代表として，芸術系美術コースの発展に尽力したい。また，各種委員会とコースとのパイプ役として，相互の情報の正確な受け渡しに努めている。
・コース会議・部会などでは，アイデアや考えを述べるだけではなく，審議事項にかかわる事柄を本学発展のために方向付けるには，どのようなプランが必要か具体的に提案した。
・大学の一構成員として，大学の研究・教育の向上に関する事柄について，今まで以上に積極的に発言を行い，複数の理事に私自身が考える本学発展のための基礎プランを提示した。
・人事関係の委員の仕事を誠実に行った。
結果としての評価に関して言えば，今年度を概括的に振り返ると，複数の人事にかかわったため，運営に関わる書類作り・会議に追われる日々であったが，コース運営上も大学運営上も，期待した以上の成果を上げることができた。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

附属学校との連携
・附属幼稚園，附属小学校・附属中学校の園児・児童生徒が地域の美術館を利用し，実りある鑑賞学習ができるよう，各学校園および美術館と緊密な連絡を取り合い，教育内容が充実するよう，ギャラリートークなどの授業計画作成に協力する。
・附属中学校との連携を強化し，美術担当の教員（小浜氏）と連携しながら，主体的な表現や鑑賞の探究ツールとしてのリサーチ型ワークブックの開発に努めたい。研究を支援し，共に共同研究による学会発表ができるよう研究態勢を整えたい。
社会との連携
・美術科教育学会の理事として，美術教育研究の質の向上に努めたい。
・「せとうち美術館ネットワーク」や大塚国際美術館との「地域文化財教育活用プロジェクト」を積極的に推し進めることで，地域の教育力を高め，子どもたちや市民の美術館来館による美術・芸術の活性化と，美術教育理論の社会への応用を図りたい。
国際交流
・昨年度も今年度も，韓国や中国から研究生などとして留学生を受け入れ，指導している。このような留学生に懇切丁寧な指導を行なうことで，わずかながらではあるが国際交流の活性化に努めたい。

2．点検・評価

附属学校との連携
・附属幼稚園，附属小学校・附属中学校の園児・児童生徒が地域の美術館を利用し，実りある鑑賞学習ができるよう，各学校園および美術館と緊密な連絡を取り合い，教育内容が充実するよう，ギャラリートークなどの授業計画作成に協力した。
・附属中学校との連携を強化し，美術担当の教員（小浜氏）と連携しながら，研究を支援し，共に共同研究による学会発表ができるよう研究態勢を整えた。特に附属中学校の研究支援に力を入れた。

社会との連携
・美術科教育学会の理事として，美術教育研究の質の向上に努めている。とくに今年もまた学会優秀論文の選考委員長として選考の業務に携わっている。
・「せとうち美術館ネットワーク」や大塚国際美術館との「地域文化財教育活用プロジェクト」を積極的に推し進めることで，地域の教育力を高め，子どもたちや市民の美術館来館による美術・芸術の活性化と，美術教育理論の社会への応用を図っている。10月には「せとうち美術館ネットワーク」の加盟39美術館が集まる総会の企画・運営を行い，講演者として国立近代美術館の一條彰子氏らを招くことができた。また，美術館の学芸員と教育普及の課題について検討会を持った。

国際交流
・昨年度も今年度も，海外から研究生などとして留学生を受け入れ，指導している。このような留学生に懇切丁寧な指導を行なうことで，わずかながらではあるが国際交流の活性化に努めている。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

・本学もかかわる上越教育大学が纏めた文部科学省先導的大学改革推進委託事業:「教科専門と教科教育を架橋する教育研究領域に関する調査研究」に積極的にかかわり報告書の執筆にかかわった。
・鳴門教育大学創立30周年記念誌発刊のための編集業務に精力を注いだ。